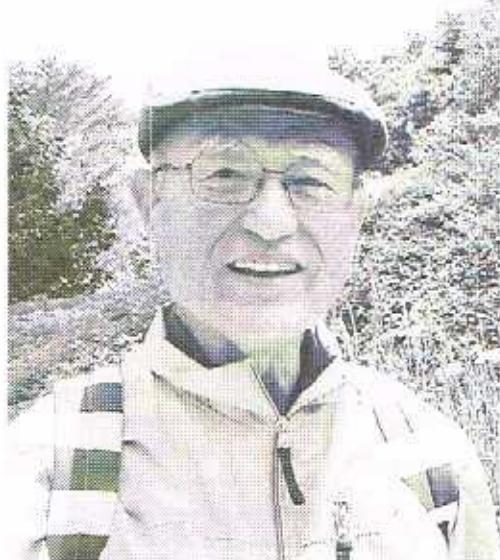


石川晃弘の



スロヴァキア熱

—言葉と歌と平和と—



石川晃弘 いしかわ あきひろ

1938年生まれ。専門は産業社会学・中東欧研究。社会学博士。中央大学名誉教授。ブレショウ大学名誉博士。日本スロバキア協会会長。『東ヨーロッパー人と文化と社会ー』(有斐閣 1992年)、『スロヴァキア熱—言葉と歌と土地ー』(海象社 2006年)、単著・共著・訳書など著書多数。調布市布田在住。日本ユーラシア協会調布狛江支部のコーラス『ドゥルージバ』所属。スラヴ民謡に酒、金魚とメダカをこよなく愛す。

中欧の小国スロヴァキアが独立国となって今年で21年目。1000年もの大国支配下で人びとは陽気に歌をうたい郷里の文化を育みながら独自の民族的アイデンティティを築き、平和な国作りをした。その生きざまをご紹介。

プレトーク

マトリョーシカビジネス奮闘と
日本ユーラシア協会との出会い

梅村良恵 うめむら よしえ

現場でのロシア語の使用とは?ロシア語力向上のため通った東京ロシア語学院、日本ユーラシア協会との出会いや、会社設立後の協会でのワークショップ開催、物販、協会入会などを語る。

プロフィール

東海大学卒業後、ロシア専門商社に勤務、マトリョーシカ他ロシア工芸品を担当。仕事をする傍ら、夜間休日にロシア語学院に通う。(ユーラシア協会と出会う)。2016年VOLGA&Co設立、ロシア工芸品等の輸入卸業務を開始、ショールームVOLGA(ボルガ)の運営。



9.23 (月・祝)
2019. 16:00▶17:30

東京ロシア語学院 2F ホール

東京都世田谷区経堂 1-11-2

参加費: 500円 (当日受付)

ユーラシアフェスタ講演「石川晃弘のスロヴァキア熱」こまえ実行委員会
代表 中村禎宏 ☎090-5416-7063

石川晃弘のスロヴァキア熱 -言葉と歌と平和と-

講演要旨

スロヴァキアという国

位置：ヨーロッパの真ん中 面積：日本8分の1 人口：日本の20分の1

こんな小さな国があえて世界に存在する意義は？（チェコ人やスロヴァキア人の自問）

略史：古代（モラヴィア帝国） 中世・近世・近代（ハンガリー王国） 20世紀（チェコスロヴァキア共和国→スロヴァキア国→チェコスロvakia人民民主主義国→同社会主义共和国→連邦化） 現代（スロvakia共和国・1993年平和裏に分離独立）

スロvakiaの民

ハンガリー王国時代のスロvakiaの人びと（ハンガリー人・ドイツ人・ボーランド人・チェコ人・ルシン人・ユダヤ人・ロマ、逃亡ロシア人、等々）

19世紀第2四半期（幕末～明治維新の頃）あたりから民族確立運動（浪漫主義とスラヴ主義、民族言語の確立、民謡、民話の収集、「マジャール化」（1860～）に対する自立運動）=民族独立運動の主役は貴族や軍人ではなく、平民出身の文人＝

民族的性格：善良さ、勤勉さ、ホスピタリティ

基本的価値：Duša（心）と Láska（愛）（理性や正義ではなく）

派生的価値：朗らか、感じがいい、信頼が置ける、心が広い、友好的、寛容（理性的、論理的、正しい、まじめ、本気、有能、利口よりも）

否定的価値：攻撃性、傲慢、打算性（勇ましさや戦闘性も敬遠）

宗教的寛容：5つの宗派の共存と友好関係

地域的文化的紐帯：酒と歌

公式行事の場、地域の祭り、誕生会・結婚披露宴、そして村の公営酒場
職場や地域でのフォークロア団体、その地域社会機能

民謡（20万以上収集）：自然をテーマにしたものは少ない。主として生活をテーマ。

（恋、冷やかし、嫁姑の諍い、猥雑、酒、盜賊、等々：地方色豊か）
厭戦歌はあるが、反戦や平和そのものをテーマにしたものは歌われない。

東方外交と中立志向：とくにロシアに対する世論と政治

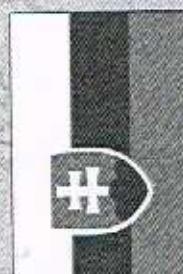


ボーランド



卷二

モラヴィア地方



ハンガリー